北海道立北方建築総合研究所 NEWS LETTER 北方かわらばん Mail Magazine VOL.10 2009/10/22 「北方かわらばん」は、北海道立北方建築総合研究所が発行しているメールマ ガジンです。ホームページ等で配信登録された方にお送りしています。 アドレスを登録した覚えのない方、登録内容の変更、配信停止は【管理者から のお知らせ】をご覧ください。このメールアドレスは配信専用のため、返信で きませんのでご了承ください。 ※MSゴシックなどの等幅フォントでご覧ください。 今月号のトピックス 第10号の内容はこちらです。 ■イベントのお知らせ □北方建築総合研究所一般公開を開催します! □「地震防災体験学習 i nあつま」を開催しました ■今回の特集記事 □報告会「北海道の住宅の未来を考える」を終えて ■北総研からのお知らせ □住宅用トータルエネルギー予測プログラムの配布に関するお願い □普及支援に関するニーズを募集します ______ イベントのお知らせ

■【北方建築総合研究所一般公開を開催します!】

平成21年10月25日(日)、「平成21年北方建築総合研究所一般公開」を開催します。

昨年度好評だった風洞装置を使用した強風体験コーナーなど、子どもから大人まで体験を通じて建築に触れることができる10の「常設コーナー」や「住まいがわかるセミナー」など、どなたでも体験できる内容のほか、コンクリート小物づくりなどが体験できる「体験コーナー(定員制)」や「実験施設見学ツアー」など、ゆっくり楽しみたい方向けの内容もご用意しています。また、スタンプラリーやクイズラリーに参加していただいた方には、プレゼントもご用意していますので、興味のある方はぜひご来場ください。

日時:平成21年10月25日(日) 9:00~17:00 場所:北方建築総合研究所(旭川市緑が丘東1条3丁目1-20) 入場料:無料(事前申込み不要。20名以上の団体のみ要問合せ)

■【「地震防災体験学習inあつま」を開催しました】

平成21年10月3日(土) 厚真町総合ケアセンターにおいて、日本建築学会 北海道支部と共催で「地震防災体験学習inあつま」を開催しました。 体験学習を通じて地域住民の方々に地震防災について理解を深めていただき、 地域の防災力向上につなげようと、昨年度の中標津町に引き続き、今年度は2 003年十勝沖地震で被害を受けた厚真町での開催となりました。

小学1年生から大人まで、スタッフを含めて54名が参加し、地震と建物について学んだ後、会場近くの戸建て住宅において実際に耐震診断と室内診断を行い、グループ毎に家の地震対策について話し合った結果を発表しました。また、耐震診断に参加しなかった小学校低学年の子どもたちは、防災カルタを使ったカルタ大会に参加し、楽しみながら防災を学んでいました。

プログラムの最後には食事会が開かれ、炊飯袋で作ったご飯や缶詰の避難食の ほか、地元の婦人団体協議会の方々に作っていただいたカレーや厚真の搾りた て牛乳を参加者全員で味わいました。

今回の特集記事

■【報告会「北海道の住宅の未来を考える」を終えて】

平成21年9月14日(月)札幌コンベンションセンターにおいて、平成21年北方建築総合研究所調査研究報告会「北海道の住宅の未来を考える」を開催し、209名の方々にご出席いただき、無事終了することができました。

今回は、第1部研究成果報告会、第2部シンポジウムの2部形式で開催しました。

第1部研究成果報告会では、当研究所がこれまで研究し普及を続けてきた「北方型住宅」に密接に関わっており、北海道の住宅に必要な要素技術である「ユニバーサルデザイン」「換気」「音」「温熱環境性能」「積雪」の5分野について、過去の研究成果から今後の展開まで、研究職員の思いを織り交ぜながらの発表となりました。

第2部シンポジウムでは、巽 和夫氏(京都大学名誉教授)より「持続可能型社会をめざすハウジング」と題してご講演いただき、超長期住宅先導的モデル事業をはじめ、国内の先進的な取組事例など、参考となる話題を数多くご提供いただきました。

基調講演後に行われたパネルディスカッションでは、北海道を拠点として活躍している五十嵐 淳氏(五十嵐淳建築設計)、武部 豊樹氏(武部建設株式会社)、鈴木 大隆(北方建築総合研究所)3名のパネリストを迎え、「建築家」「技術者」「研究者」それぞれの視点から提言をいただき、瀬戸口 剛氏(北海道大学大学院工学研究科准教授)のコーディネートのもと、「これからの北海道の住宅のあり方」について議論していただきました。発言の一つ一つに各パネリストの個性が光っており、様々な議論の中で、今後の住宅を考える上でみんなが考えていかなければならない「もの」が見えてきた気がしました。方向性を決定する場ではなく、技術者もユーザーも、それぞれが考えていく「きっかけ」となり、何かを掴み取っていただけたら…と思っています。

北総研からのお知らせ

■【住宅用トータルエネルギー予測プログラム配布に関するお願い】

当研究所ホームページにおいて公開している「住宅用トータルエネルギー予測 プログラム」ですが、おかげさまで非常に多くの方にユーザー登録していただ き、ご利用いただいています。

利用にあたって多く寄せられているご質問をQ&Aのページで紹介していますが、「登録したが、ダウンロード用のメールが届かない。」といったお問い合わせが多くなっています。

ダウンロード用メールはコンピュータによる自動返信ではありませんので、登録していただいた後、すぐに届かない場合があります(特に土日祝の場合)。 ただし、1週間経っても届かない場合は、

- 登録していただいたメールアドレスに誤りがある
- ・研究所から送信したメールが受信側で迷惑メールとして判断されている などの問題が考えられます。届かない場合は、ホームページから再登録せず、 電話かメールにてお問い合わせください。

▽お問い合わせ先▽ 企画指導室指導支援科 電話 0166-66-4218 メール info@hri.pref.hokkaido.jp

住宅用トータルエネルギー予測プログラムのページ http://www.hri.pref.hokkaido.jp/provide/software-energy.html

■【普及支援に関するニーズを募集します】

当研究所では、年2回の調査研究報告会(札幌、旭川の2会場)の開催、セミナー等への講師派遣など、研究成果や技術を広めるために様々な形で普及支援活動を行っています。

当研究所ではさらなる普及支援活動の拡充を目指し、調査研究報告会や講習会等に関するニーズを募集します。

「こんな内容の講習会を開催してほしい」「この地域で開催してほしい」などで要望がありましたらメールにてお知らせください。ご要望に添えない場合もありますが、できる限りご要望にお応えできるように検討いたしますので、皆様からの声をお待ちしております。

メールはこちら info@hri.pref.hokkaido.jp

【編集後記】

今年の札幌での研究報告会は、昨年から長期優良住宅モデル事業などにより、 高性能かつ長期使用が可能な住宅が着目されていることもあり、早くから「住 宅」をテーマとした企画を検討してきました。

長期優良住宅というのが今後の住宅の姿なのか、あるいは別の姿なのか、やは り北海道で考え、提案し発信すべきと考え今回の企画となりました。

報告会を終え、住み続けるためのシステム、北海道の地域性からの普遍性の提案、古き良きものを生かし使い続けること、これらを基にこれからの住宅の姿を形にしていくのが我々研究者の役割ではないかと感じています。

報告会の来場者アンケートでは、様々な貴重なご意見を頂きました。「住宅の未来への具体的な提案が必要」「パネリストとの議論の場がほしい」「ユーザーの目線で情報提供を」といったご意見があり、具体的な提案を必要としている状況を強く感じました。

このようなご意見を参考により有益な報告会を企画していきますので今後とも

よろしくお願いいたします。

(H)

管理者からのお知らせ

アドレスを登録した覚えのない方は、お手数ですが下記の各種お問い合わせ専用アドレス宛てにメールにてお知らせください。

登録内容の変更や配信停止は、下記のアドレスをクリックしていただき、ホームページ上で手続きを行ってください。クリックしても正しく表示されない場合は、アドレスをコピーしてブラウザに貼り付けてご利用ください。

メールアドレスの変更、配信停止の手続きを行ったにもかかわらず、行き違い により配信される場合がございますので、ご了承ください。

■購読申込・変更・配信停止はこちら

http://www.hri.pref.hokkaido.jp/provide/mail.html 変更・配信停止の場合は、ご意見、ご質問欄に「変更」または「配信停止」と 記載してください。

■各種お問い合わせ専用メールアドレス info@hri.pref.hokkaido.jp

ご登録いただいた情報は、メールマガジンの配信及びイベント情報の配信を目的として利用し、それ以外の目的に使用することはありません。

発行:北海道立北方建築総合研究所企画指導室